



花○語、偽○語 羽○翼 CG集

彼氏より俺のち○ぽが
イイ事を知っている！

滞空ワークス

「いらっしやいませ。こんばんね、私、ツバサっていいます♡。」

「う、うひょー。か、可愛い・・・
こんな娘が相手をしてくれるの？
本番ありだから女の子の期待して
なかつけど、このデリヘル
レベル高！」

「お客様、初めてですか？」

「うん、そうだけど・・・。」

「ウフフ、それじゃ今日はいっぱい
サービスしちゃいますね♡
その代り次回のご指名お願いしますね♡。」



「うひょひよ、ツバサちゃんの
オマ○コ、プツクリ肉厚
お豆も大きい！真面目そうな顔してて、
すげえエロマ○コ♡。」

「やん♡、覗いちやダーメ♡
そんなことしなくてもちやんと
見せてあげるから♡♡。」

「それじゃ、しつれいしまーす♡。」

クリクリ♡

ちゅい♡

「はむっ・・・んぶちゅ。」

「ほう、ああ、玉を揉みしだきながら、
亀頭の先をグリグリ！」

「はむっ・・・レロレロ。」

「ぽくうん♡♡♡。」

「はむっ、んぶちゅ、んぶちゅ、んぶちゅ。」

ぽん

モゴ

「くおっ舌で弄びながら、
裏筋をモゴモゴ！」

「んぶうん♡♡♡。」

ちゅい♡♡♡ ちゅい♡♡♡

「うおおお．．．すごいよ、ツバサちゃん！
尿道が裏返るくらい強力なバキュームフレア！」

「んんん．．．
んぶちゅ♡んぶぶぶ♡♡♡。」

「ほふい！どこで覚えたんだ、こんなエロテク
まったく、男を喜ばす方法を何でも知ってるんだな！」



「何でもは知らない...
知っていることだけ♡。」

「ふうん、でも、そーゆうこと知っているってことは
彼氏にでも教え込まれたわけ？」

「ラフフ、ひ・み・つ♡。」

「それより、お客様のオチン○ンしゃぶてったら
オマンコ♡いっぱい濡れてきちゃった♡。」

「欲しくなってきたらね、
このエロ娘め！」





「あん♡す♡らいオマ○コ、トロトロ
膣口がぽっかり開いてHなお汁が
糸引いて垂れてる♡♡。」

むっ
げっ
りゅう♡

く
ぴん
あ♡

「本当だ、お尻の穴までピチヨピチヨ
早くチ○ポ食べたいうってバクバク言ってる。」

「それでは今度は、下のお回でお客様の、
オチン○ンをご奉仕させていただきます♡。」

「じゃあ、どんなもんか時間いっぱい
たっぷりと、味わってやるか。」

「お尻こっち向けて、足広げてくれよ。」

「はい♡。」

「へへ、いい眺めだ、プリツとした
つまった尻してるぜ！」

「あん、そんな」と言っちやイヤ♡。」



「あっ・・・熱い♡♡。」

「オマ○コの入○り回にオチン○ン
ビクビク言っ○て焼ける様に熱も○つ○てるっ♡。」

「へえ、感度いいね、あてが○つただけなのに
そんなことまで分かるんだ。」

「うん♡だ○つてもう、何十人も男の人
相手にして○るから・・・。」

「そんなじゃ、そんな敏感オマ○コに、
一気にねじ込んだら、ツバサちゃん
どうなっちゃうのかな？」

「ほん♡、あ・挿入ってエ・ん♡。」

「ぬいっ・いん♡。
「あはあああああ♡♡」

みち

みち

「にひい・・深い奥まで届いて
カリががっちり引っ掛かって当たってるぅう♡♡。」

「むひょろツバサちゃんの膣キツキツ！
何十人も相手してたって聞いたからもって
ユルイと思ったけど、いい感じで締まる！」

「うらや、動くよ、ツバサちゃん。」

「はいん♡あんっお客様、そんないきなり♡。」

「あんっあうっ……ああああ♡♡。」

「くぅ、すっ胸がいい感じにサラサラして猫の舌みたいだ！それに、引き抜く度にピラピラが吸い付いて奥に引き込まれる！」

「あいん♡あうあっ……にやびい♡♡。」

「あはあん♡まっつてエ♡もっくとゆっくり・
オチン○ンの先が子宮口ズツププリー♡♡。」

「形が変わっちゃう♡子宮口がア・
オチン○ンの形にイ・・にひんイ♡♡。」

「らめえ・・まっつて、まっつてえ♡

根元まで挿入れちゃあ、

女の子の大事な所お♡♡。」

「じ開けちやらめえええ♡♡。」



「オラアこれならどうだ、ツバサちゃん!」

「ほいいん♡やだあ、そんな上から
体重かけて・・ぬいいん♡
ズンズン、あがぁ♡♡♡」

「突かれる度に・・にひん♡
子宮口が広がって・・あぁぁ♡」

「そーら、もうすぐだよ、いくよ。」

「子宮挿入よ!」

「ああん、だめです、ゆるしてそこは、
赤ちゃん作る所だから、オチン○ンは。」

「らめえ♡らめええ♡♡♡」



「きゃひいん♡はひ。」

「はあああああ♡」

とがらん

「うそ．．入っちゃった、んああ
子宮の中に、．オチンコン．．
彼にもこんなゆるしたこと
ないのにい♡♡。」

「へへ、やった、それじゃ俺が初めて
ツバサちゃんの子宮処女を、
奪った男だ!!!。」

「ツバサちゃんの奥の奥は
どんな具合なんだあ?。」

Shin

「ぬほおお♡まっつてよおいきなり
激しいよお♡やああそこは
初めての場所、乱暴にしちやらめエ♡♡。」

「うほお、スゲエ子宮内波打っ打っつうねって
子宮口がカリ首に引っ掛かって
今までにない感触!!!!」

「やだあ、止めてエ狂っちやう
突かれる度に電気が走るう♡♡。」

「だめだごめん気持ち良過ぎて止まんねえ!。」



「くおお、もうだめだ、
射精る！」

「ツバサちゃん、全部受止めてくれ！」

「くおおお！」

「にひいいらめよ、そんなあ
子宮に直接だなんて・・・
あっあああ♡。」

おちゅら

おちゅら

おちゅら





「あにいいいいいいいいい♡♡♡」

「おほお・・・熱っ・・・にいい♡。」



「ああ♡あはああ…いいっ♡。」

「やだっ子宮に一気に…熱くてドロドロした塊が…♡♡。隅々まで…♡♡。」

とろろとろろ

とろとろ

「ふわあ♡ごめんね…私、お客様に子宮内射精ゆるしちゃった♡♡。」

「はーはーはー♡あはあ、もう、こんなに
いっぱい大丈夫な日じやなかったら
確実に妊娠してますよ。」

ろおん、

ぐ

「次も絶対指名するよ!!」
「ありがとうございます♡。」

「うわっ我ながらすごいな...
こんなにツバサちゃんの膣に...」

「ハハ。悪い悪い、あんまりにも
気持ちよかったから!」

「フラ、私もこんなに
喜んでいただいで、
とても嬉しいですよ。」

ぐにっ♡

んんん

アア



「でもその前に、時間延長で。」
「オマ○コから精子が流れ出てくるのが
エロくて、また、チ○ポ勃起しちまった。」



「
!
♡
♡
。」

♪
♪
♪

♪
♪
♪

数ヶ月後。

「いらっしやいませ♡
お久しぶりです！」

「えっあれ？もしかして
ツバサちゃん！」

「はい♡。」

「メガネやめて髪切っちゃったんだ。
・・・それに、そのお腹まさか、妊娠してるの。」

「ええ、彼の赤ちゃん。彼、優柔不断だから
これが一番だと思って・・・まあ、もともと
三角関係みたいなもんだったし・・・
もう逃げられないようにしたの♡。」

「うわっ・・・コワッ！」

「もう安定期に入ったし、
お金も必要だから、
また、復帰したの。」

「アハハ」

「へえー大変だね。」

「・・・ポテ腹イヤ？他の娘にチェンジ
してもいいけど・・・。」

「いや、すごく興味ある！」



「あは♡嬉しい彼っいたらお腹が大きくなったら全然Hしてくれないから、少し悶々としてたところだったのよね♡。」

「その証拠にほら♡。」

「うわっもうヌレヌレ・・汁でキラキラ光ってオマ○ヨも黒ずんでてビラビラが蝶の羽見たいですごく卑猥な形してる！」



「くそ、早くツバサちゃんにチ○ポぶち込ませてえエ！」

「あん♡、乱暴ね。妊婦さんには優しくしろって学校で習はなかったの?。」

ブルン♡

「知ってるよ!でも、それとこれとは話が別だ!。」

ゆづん



「それに、ほらー!」

「あん♡オチのポあつっーい♡♡
少し付けただけでオマのココ火傷しそう♡。」

「ツバサちゃんが我慢出来ないように、
俺もこんなに!」

「ウッフ、来てエオチのポオ♡
妊娠オマのココにズブズブって
ねじ込んでえ♡♡。」

ぐいゅん

ふん



「いくぞー!」

「あひい、あへええ♡♡♡♡♡」

「来たああ♡久しぶりのオチ○ポオ
オマ○コにカチカチオチ○ポオ・
奥までえ♡♡。」

「きたあああ——♡♡♡」



「ふひいん♡はああ、届いてる
お腹の深い所までえ♡♡♡」

「熱いのが、肉を掻き分けて
子宮口まで貫く感覚♡♡♡
これよ、これええ♡♡♡」

「オチのポオ最高おお♡♡♡」

ア♡

ア♡

かきん



「はひいん、ああ、すごい♡奥までズンズン、ふひいん♡。」

「うひよー、久しぶりのツバサちゃんのおマ○コ、ネットリと吸い付くような感覚変わってねーツバサちゃん最高ー!。」

「私も安定期入って彼に相手してもらえなかったから...♡はあん♡。」

「はいん、ああ♡あはああ♡♡♡。」

「そんなに激しくされたら、弾け飛んじやうよ♡♡。」



「可愛そうに大好きな彼氏に相手してもらえないなんて。」
「それじゃ、今日からツバサちゃんは今俺専用マ○コってことでもいいよね。」

「えっ!。」

みほおっ

みほおっ

「今から俺のチ○ポに合うように、いっぱい犯して、形作ってあげる。」

「あん、だめよ、そんなことしちゃ!」
「彼とHした時バレちゃ... きゃあ、やア奥まで、押し付けて馴染むようにイひん♡。」

めざん



「にひいん♡らめえ、そんな風に関発しちゃ♡
バシちゃう、彼に絶対バシちゃう、きゃん♡♡。」

「へへ、身体の方はもう馴染んで来てるよ
回では嫌がっていても身体は正直だ。」
「そ、そんなア・・・。」

「その証拠に、ほらー」



「おほおおおん♡♡」

「奥の深い所まで突き立てると子宮口がデープキスするように龟头を包み込んで喜んでるよ。」

「うそ、ウソよ！ そんなことないもん！」

「そんなじゃあ、もう、やめようか。」

「いやあア、それもイヤアア！」

「それじゃあ、ツバサちゃんのオマ○は俺専用と言っ事で。」

「う、うん、それでいいから、それでいいから
いっぱいオマ○してHEHE♡♡。」





あー
はー
ん

あー
はー
ん

「ほししい♡オマ○コに熱くて濃いのお
腔内射精アクメでイキたい♡♡。」

「はいいん♡腔に精子イ♡♡。」

「ぶひいつ素直でよろしい、そんないい娘な
ツバサちゃんには、オマ○コに濃いのを
いっぱい射精しておげるぞ。」

ん
ん
ん

「それじゃ、射精すぞー！」

「へほおおおおお♡♡♡」

「ぬひい...あかあ、おお♡」



「どうだ、良かったか？」

「・・・うん♡」

「なんだ、困った顔して俺とは身体の関係なわけだし彼とはうまくやりなよ、今までだってうまくやってきたんだろ。」

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡

「えっ？」

「ううん、違うの・・・私の方が貴方に本気になりそうなの・・・♡」

「彼の赤ちゃん産んだら、今度は、貴方の赤ちゃん種付けしてほしいなーって♡」

「ふひひ、仕方ねー淫乱女だな
ツバサちゃんは彼氏の子が腹に居るのに
それ言うか……。」

「ま、ツバサちゃんがどうしてもって
言うなら俺はいいけど、そうだと、
今度はボテ腹セックス彼に見せ付けて
やろうか、きつとたのしいぞ。」

「ふおお♡チ○ホ来たアア♡♡。」